

論点 1 適切な成果目標の設定について、検討を進めるべき。

- プロジェクトの進捗率を「短期アウトカム」としているが、本事業の長期的な成果がどのようなものか明確に示した上で、そこにつながるよう、中期・長期アウトカムの設定について検討を進めるべき。

論点 2 事業スキームの在り方について、費用対効果の観点から見直すべき。

- 本事業は開始から10年以上経過しているが、事業終了年度に向け、委託から補助に移行し、民間の事業として自立化を促進するなど、出口を見据えた事業の在り方を抜本的に見直すべき。
- 毎年約10億円を投じているモニタリング費用の必要性の見直しなど、事業の進捗率を踏まえ、事業の縮小が行えるものが無いか点検すべき。
- 事業開始から十数年経過し、2050年カーボンニュートラル実現に向けた支援事業が様々増えている中で、本事業がどの程度貢献するのか、その効果に見合った予算規模となっているか、あらためて検討すべき。